

ブラジルのバイオ燃料事情



今のエタノールプラントで次世代の燃料が

サトウキビから炭化水素を生産

米国のバイオ・ベンチャー企業 Amyris Biotechnologies とブラジルで最大級のエタノール流通会社 Crystalsev が、合併企業 Amyris-Crystalsev Biofuels の設立を発表したのは昨年 4 月です。

Amyris が 70%、Crystalsev が 30% を出資しましたが、「Crystalsev の親会社の Santelisa Vale の経営不振の余波で」(5 月 27 日、Reuters News)、本年 5 月に Amyris の 100% 子会社になりました。

ご承知のようにブラジルのエタノール業界は金融危機で厳しい状況に置かれています。

そのなかで Amyris は、「ブラジルでエタノールプラントの買収を交渉中」(6 月 26 日、Dow Jones News Service) です。

少なくともふたつのエタノールの商業プラントを転用してサトウキビの糖から次世代の輸送用燃料を生産する計画です。

先月(6 月)、サンパウロ州に建設していた実証プラントが稼働を開始しています。

Amyris は、2011 年の商業生産に向けて、「商業プラントの最終設計および建設の管理業務をエンジニアリング会社に委ねた」(6 月 26 日、Business Wire) そうです。

2 年前に

米国の下院科学・技術委員会のエネルギー・環境小委員会の公聴会で、先進的バイオ燃料連合の Mcadams 専務理事が会員会社の Amyris に代わって以下のように説明しています。

「Amyris が開発した技術は、現在のエタノール製造プラントで使用している技術と同じです。現在使用している酵母を、改良された新しい酵母に取り替えるだけで、第 2 世代のバイオディーゼ

(Web 版)「世界のエネルギーの話題」(2009 年 7 月 7 日)

ル、ジェット燃料およびガソリン添加剤が生産できます。同社は 3 年後には製品を市場に出せると考えています。」

この新しい酵母は、カリフォルニア大学バークレー校の Keasling 教授の研究チームが、合成生物学のツールを使用して、糖から炭化水素を生産できるようにしたものです。

炭化水素は石油の成分です。

石油系燃料に混合しても第1世代のバイオディーゼルやエタノールのような不具合はありません。

2003 年に設立された Amyris には、Keasling 教授の研究チームから Newman 博士が共同設立者兼副社長として参加しています。

そして同社の現在の最高経営責任者は、2006 年まで BP の米国の石油製品販売の責任者だった Melo 氏です。

輸送用燃料の課題を熟知しているはずです。

ひとこと

米国エネルギー省の Chu 長官は以前から Keasling 教授の研究を評価しています。

ブラジルの燃料市場に進出する Amyris を米国政府は側面から支援していると思います。

(YY)

本レポートは、世界の 2,100 以上の新聞、3,500 以上の業界誌、500 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバのデータベースサービス、および Web で入手した多数の記事、レポートを比較、分析して、その結果の一部をご紹介します。(山崎由廣)